



BベEテLH通E信L

2021年4月号（第213号）

松山ベテル病院 松山市祝谷6丁目1229番地 TEL 089 - 925 - 5000

ホームページ <https://www.bethel.or.jp/>

2021年度医局長を拝命して

2020年度はコロナに翻弄された1年でした。社会全体がコロナを中心に回っていました。三密を避ける、マスク・手洗い、リモート（WEB）会議・面談に、発熱外来、PCR検査など様々なことが行われ、慣れない環境に緊張していました。愛媛県でクラスターが発生し、当院でも発生するのではないかと恐れていました。全てが自粛方針となり、楽しむことが減りストレスが溜まっていきました。コロナに注意しながらの日々の診療とケアにおいて、改めて人の力というもの実感しました。施設内にコロナを持ち込ませないために面会ができないことで、患者が家族から隔離され結果的に孤独となりました。また家族も面会ができないことで、患者が変化していく経過を実感できませんでした。面会を許された時には病状が大きく変化し戸惑われることが近隣の医療・介護施設で発生しました。そのことから、高齢者、がん、難病を診ている当院では、改めて家族が面会に訪れることの重要性を実感し、家族の力（愛）の大切さを痛感しました。面会を制限することでコロナを持ち込ませないことが期待できる一方、損失も大きなものとなりました。コロナで様々な制限がかかっているこの時代に、患者と家族の想いをどのように支えるのかが問われています。当院の基本理念、“全人的なケアの実現”が問われており、理念に立ち返ったケアを行っていきます。

今まで人類が様々なことを乗り越えてきた歴史を考えると、そう遠くない時にコロナを制御できるのではないかと期待しています。我が国でワクチン接種も開始され、新たな段階に入っています。一方コロナも形を変え挑んできますが、我々も免疫やケアの体制が日々進歩しております。当院でもコロナのワクチン接種が開始されます。医療従事者、高齢者、合併疾患のある人、高齢者施設スタッフ等から行っていきます。ワクチン接種は国を挙げてのことで、今後何かと皆様方にご不便をお掛けすることがあるかもしれません。コロナ感染症で大変な時はしばらく継続しますが、皆で力を合わせ日々丁寧に対応していきます。

（ホスピス医長 坪田 信三）



増々重要になる緩和ケア

人間誰しも病気に罹らず(病気に罹っても治して)ある程度の年齢まで(家族の成長を見届けるまで等の気持ちで)長生きしたいのは同じかと思われます。しかし人間の病気で完全に治るものは感染症ぐらいで少なく、日本人の二人に一人は癌に罹患する時代です。最近の統計データで日本人のすべての癌の10年生存率は約57%と出ていました。つまり残りの約43%の方は治癒せず付き合っていかなければならないということです。多くの方が「自分だけは癌には罹らないんだ・・・」という根拠のない自信を持っており私もその一人です。母方の祖母、両親、叔父2人が癌に罹患しており「癌家系」と言えるのに、散歩したり健康に気を配っている？から大丈夫だろうと思っていました。しかし年を取るにつれてその自信も揺らぎ始めています。日本人は超高齢化社会となり癌の罹患率が上昇しています。

もし癌に罹って治療して治らなかったとしてもホスピス緩和ケアがあります。身体的ケア・精神的ケア・社会経済的ケア・スピリチュアルケア等と一応区分されますが患者さん・ご家族によりニーズはさまざまでありその必要度に応じて優先順位を考えサポートして行きます。医療者だけでなく、介護・福祉の方々、ボランティア、政治・行政等を集約してその患者さんの苦痛や困っていること・不安の緩和、生活・介護支援を行い、私たちがずっと伴走者でいるという事を保証し安心していただきます。

医師としてはまず苦痛な症状のコントロールを十分行うことに主眼を置きます。それは普通の鎮痛剤に加え、必要に応じ緩和ケアの2つの中心的な薬となる「副腎皮質ステロイドホルモン剤(デカドロロン・リンデロン等)」と「医療用麻薬」(モルヒネ、ナルサス、オキシコンチン、フェンタニル等)を使用します。(もちろん症状が穏やかな方や高齢の方の中にはこれらの薬が最後まで必要ない方もおられます。)

当院の外来に通院中の80歳代の方がおられました。急な呼吸困難・胸や背中への痛み・嘔気・嘔吐・食事摂取困難・全身倦怠感の症状で緊急入院されました。当初は病状もかなり厳しいかと思われましたが、ステロイドと医療用麻薬を最初は注射(モルヒネを持続皮下注射、ステロイドを静脈注射)で受けて頂くと、翌日にはすっきりしたお顔で「楽になりました」と言ってくださいました。数日後には注射薬を飲み薬に変更することが出来、日常生活動作が普通に出来るようになりご本人が退院も考えておられます。医療用麻薬が痛みと呼吸困難を緩和し、ステロイドが嘔気・嘔吐・食欲不振・呼吸困難・全身倦怠感等を和らげたと考えられます。

ステロイドは患者さんによっては著効することもあり一名『魔法の薬』とも言われますが、どの程度の量を使うかの医師の判断が大事です。薬理作用として血糖値を上昇させるので糖尿病のある方には注意が必要ですし、興奮・不眠・うつ等の精神的不安定を引き起こしたりすることがあるので、特に高齢者の使用には注意が必要です。また長期(3~4か月以上)使用による副作用もあり得ます。個々の患者さんの年齢、癌の病期、病状・体力・精神状態によって効果・副作用は大きく異なりますので、医師とよく相談されることをお勧めします。



抗菌薬とウイルスについて



コロナウイルスが猛威をふるっており、コロナウイルスに対しての特効薬の登場を望んでいる方も少なくないと思います。ウイルスを治療すると聞いて、身近に思いつく薬は抗菌薬だと思いますが、残念ながら抗菌薬にはウイルスをやっつける効果はありません。

抗菌薬とは細菌を壊したり、増えるのを抑えたりする薬のことを指します。その中でもよく耳にする抗生物質は微生物が作った化学物質のことをさします。抗菌薬は細菌の構造や増えていく過程を邪魔して効果を発揮します。



たとえば、代表的な抗菌薬であるペニシリンは細菌の細胞壁の合成を邪魔して、細菌が増えるのを抑えます。

ヒトと細菌の大きな違いの一つに、細胞壁があるかどうか、ということが挙げられます。ヒトの細胞には細胞壁がありません。そのため、ペニシリンはヒトの細胞に影響を与えず、細菌のみを攻撃することができるのです。

このように抗菌薬は細菌の仕組みを利用した薬ですので、細菌以外の病原体（ウイルスや真菌など）が原因となる感染症には効果を期待できません。

一方、抗ウイルス薬も発売されていますが、抗菌薬よりも種類は多くなく、インフルエンザ、ヘルペス、肝炎といった限られたウイルスに対しての治療薬しかありません。抗ウイルス薬の開発がなかなか進まない理由の一つとして、ウイルスの構造が非常にシンプルで、薬の標的となる特徴が少ないことがあげられます。また、人間の細胞に侵入しその機能を利用して増殖するため、人体に影響を与えず副作用が少なくウイルスにだけ効果を発揮する薬をつくるのが困難なためだと言われています。

したがって、ウイルスに感染しないためにまずは手洗い、うがいなどの基本的な予防が重要となります。



参考文献：AMR 臨床リファレンスセンター ホームページより

（薬剤課 藤方 智也）

外来診療日のお知らせ

◎ 豊田 泰孝 医師（精神科・心療内科）

4月7日（水）、4月21日（水）

【4月より、神経内科は多田聡医師と細川裕子医師の2名で週ごとに交代制で診療いたします】

◎ 多田 聡 医師

4月1日（木）、4月15日（木）、4月26日（月）

◎ 細川 裕子 医師

4月8日（木）、4月22日（木）



◎ 越智 拓良 医師

（神経内科 細川医師）

4月より診察日を水曜日から金曜日に変更いたします

◎ 大西 哲史 医師（内科）

毎週火曜日と金曜日に診療いたします

月曜日午後の漢方外来は引き続き休診いたします

新人紹介

おかだ さき
岡田 紗希



配属部署：2階西
職種：看護師
出身地：和歌山県
星座：さそり座
趣味：寺社めぐり（ご朱印を集める）
好きな物：お魚（お寿司など）、リラックマ
尊敬する人：母
好きな言葉：日々是好日
抱負：早く慣れるよう日々精進していきます。
よろしくお願いいたします。

ベテルの桜

たくさんのつぼみの中
に咲いている花を見
つけました！
桜を見ると春を感じ
ますね。満開になる
のが楽しみです♪



2021. 3. 19

ベテル句会

入院の

三日目なりき
寒桜

（さちこ）

駐車場

あちらにゆけば
花の園

（平岡 恵行）

虫の音の

交響楽や
里の夕

（河田 和子）

ガラス越し

手のひらかさね
笑みあわせ

（四季）

鼻水を

うどんにたらし
食べにけり

（平山 恵川）



投句箱は受付・各病棟に設置しています。皆様のご投句をお待ちしております。

『ベテル通信』についてのご意見やご要望はご意見箱へお願いします。

掲載中の写真についてはご本人様の許可を得ています。

発行日 2021年3月23日